



私のひとりごと

「春の嵐」

昨年末、嫁いでいた娘に女の子が生まれた。予定日より早く生まれ低体重児であったので、元気に育つのだろうかと心配したが、お陰さまで今は元気に大きな声をあげ泣いている。

さて、1月の半ばを過ぎたころ、封筒に入ったひな人形のパンフレットがテーブルの上に置かれていた。宛名が娘婿の名前なのだが、私の目につく所に置いたものだと思う。仕事人間な私は、世間的な常識には無頓着であるが、男の子には鎧兜、女の子にはひな人形を送ることぐらいは知っている。ただ、ひな人形の価格がどれくらいなのかは全く知らなかった。以前、孫息子に兜を4~5万円くらいで買ったことがあるが、節句のお祝いといえばそれくらいの金額が私のボーダーラインになっていた。とはいえ、娘婿の手前もあり、勢いで「おじいさんが買ってあげるよ。」と言ってしまった。この一言が後の苦しみの種になるとは、その時は想像もしなかったのである。先に断っておくが、我が家では、

ささいなことが大事件?に発展することが多々あるのである。



【ずらっと並んでいるとなかなか壮観でびっくり】

買うと言った後に、そのパンフレットを開いてみると、「え!…高っ〜。」そこには20~30万円の数字がずらり…100万近くするものまである。とても私に買える金額ではない。それでも中には4~5万円くらいのものであるので、家内に「これにしよう。」と言えば「あんた、こんなことにケチるんか。」と言う。(私)「いやいや、こんな高いものとは知らなんだし…。」(家内)「買ってやるって言ったんやから、責任もって買ってあげなさいよ。」(私)「なにゆうとるんや、買ってもらえるだけ結構やないか。」…などなど。ひな人形一つで、こんな会話が延々と続くのである。たまりかねた娘が「私の子

供の頃に買ってもらったのでいいや。」と言いだす始末。確かにあるにはあるが、猫の遊び場となったひな壇と、ぼんぼりなどはすでになく、三人官女も行方不明…。ただ、手入れをすれば見れないこともない。「まっ、無いよりはましか。」と、一件落ち着しそうになったが、孫娘の顔を見れば可哀想になり、値段はともかく新しいものを買うということで、この日の話し合いは終了した。とにかくパンフレットでは解りにくいので、実物を見に行こうと娘と出かけたが、これがまた私にとって不利な状況となる。

娘も最初は値段を気にして見ていたが、良い物を見れば、いい物がいいに決まっている。そこそこ値段のする物を見比べ、どちらにしようか迷いはじめている。「あ〜…最悪だあ〜…」もはや引くに引けない状況に追い込まれ、私は途方に暮れていた。なにせ家内がサイフを握っている現状で、私に自由にできるお金はほとんどなく、タンス(タンス預金)など探してみても、入れた覚えもないのだから出てくるはずもない。ところが、そんな私にある日神が舞い降りた。会社の経理さんから「社長、年末調整のお金が戻ってきます。」との報告が。いや〜、念じれば神が働くものだ、つくづく感じたのである。ただ、そのお金だけではならず、家内が少しだけ援助してくれるということで平和的解決に至った。

暦を見れば、世間では様々な行事が書き込まれているが、我が家では行事のたびに、大きい・小さいはあるにせよ、嵐が吹き荒れるのである。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがしう
ございました!!

